

月/日	研修内容	主催者
9/29	<p>オンライン研修 「地域子育て相談機関」について考える 地域子育て支援拠点が担うために</p> <p>①「地域子育て支援拠点事業や利用者支援事業（基本型）が『身近な相談機関』として機能するために必要となる（ヒト・モノ・コト）」</p> <p>講師：関西学院大学 教授 橋本 真紀 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ、地域子育て相談機関の創設が求められるようになったのか</li> <li>・なぜ、地域子育て支援拠点事業は、身近な相談機関として機能しなかったのか、認知されなかったのか</li> <li>・地域子育て支援拠点事業や利用者支援事業基本型が、親子にとって地域子育て相談機関として機能するために必要なモノ、ヒト、コトとは何か</li> </ul> <p>② 行政説明 講師：こども家庭庁成育局成育環境課長 山口 正行 氏</p> <p>③ トークセッション 地域子育て相談機関について考える</p> <p>課題提供者：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人 松戸子育てさぽーとハーモニー理事長（千葉県松戸市）石田 尚美 氏</li> <li>・NPO 法人 おしゃべりサラダ代表理事（長野県飯田市）松村 由美子 氏</li> <li>・認定 NPO 法人 マミーズ・ネット 理事長（新潟市上越市）中條 美奈子 氏</li> </ul>	<p>NPO 法人 子育てひろば全国連絡協議会</p>
11/6	第 2 回 巡回相談	若宮保育園
11/19	<p>オンライン研修</p> <p>① トイレの自立に向けた関わり 講師：こども保育環境研究所 保育事業推進本部 粕谷 彩子 氏</p> <p>② 離乳食～はじめての食事～ 講師：管理栄養士 宮本 弘子 氏</p>	
2/19	<p>オンライン研修</p> <p>① 保育者のための救急蘇生法講座 応急手当（ファーストエイド） 講師：国土舘大学 防災・救急援助総合研究所 准教授 月ヶ瀬 恭子 氏</p> <p>② 弁護士が事例から考える 園・職員を守るための苦情対応 講師：弁護士・保育士 柴田 洋平 氏</p>	<p>チャイルド社 チャイルド WEB セミナー</p>
2/27	<p>熊毛地区保育連合会 西之表市部 最終総会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演「姿勢保持・身体図式運動遊び」</li> <li>・講師：理学療法士 福永 由加 氏</li> <li>・最終総会</li> </ul>	熊毛地区保育連合会

月/日	研修内容	主催者
9/29	<p>オンライン研修 令和5年度 鹿児島県医療的ケア児等受入促進セミナー</p> <p>①「医療的ケアの基本的知識」 講師：熊本大学病院 小児科 / 小児在宅医療支援センター 熊本県医療的ケア児支援センター 小篠 史郎 氏</p> <p>②「医療的ケア児等支援センターの役割と鹿児島県の現状」 講師：鹿児島県医療的ケア児等支援センター 前野 かつ子 氏</p> <p>③ 事例報告1 「訪問看護ステーションかごしまの役割と鹿児島県の現状」 講師：訪問看護ステーションかごしま 所長 米満 美津子 氏</p> <p>④事例報告2 「医療的ケア児等コーディネーターの現状」 講師：相談支援事業所 さつま 相談支援専門員 久保 秀和 氏</p> <p>⑤シンポジウム 「スペシャルニーズを持つ鹿児島の子どもたちのためにできること」</p>	鹿児島県医療的ケア児等支援センター
<p>第1回 8/9</p> <p>第3回 1/25</p>	<p>書面報告 子育て支援センター学習会</p> <p>・報告者 西之表市子育て支援センター わかみや地域子育て支援センター「島っ子」 中種子町地域子育て支援センター「おひさま」 南種子町子育て支援センター</p>	<p>西之表市、中種子町、南種子町 子育て支援センター</p> <p>※ 台風接近等に伴い第2回は中止</p>

## 13 所見

今年度最も大きな変化は、新型コロナウイルス感染症が5類への移行でした。4年近くコロナ感染症の予防対策が続くと、マスクも体の一部になり活動内でもどのように緩和していくべきか戸惑いを感じました。もちろん参加のお母さん方結構戸惑われていました。そこで、スタッフが率先してマスクを外したところ、まず子どもが外し、後にお母さん方も外す方が見られるようになりました。マスクが外され、子どもたちも言葉や表情で表現しやすくなったり、他者の顔をよく見るようになったと感じます。これを機に子どもたちの視覚発達が回復及び促進されてほしいと思います。

研修や会議等もオンラインから対面方式が戻ってきました。それぞれの良さがあり、今後も内容に合わせて使っていけたら嬉しいです。西之表市の療育支援ネットワーク会議では、コロナ禍でも対面方式を開催していただいたおかげで、各組織の先生方の名前とお顔を把握することができ支援の連携もスムーズに行うことができました。毎回多くのご心配をされながらの開催だったと思います。福祉の支援のため暖かい気配りをしていただきありがとうございます。次年度も色々な形の研修・会議に参加し保育や家庭支援に対する質の向上に努めたいと思いますのでどうぞよろしくお願い致します。

今年度のおもいやりネットワーク事業では、1組の支援を行いました。今回は、家計の考え方の相違によるものでした。これまでの支援で思う事ですが、それぞれのご家庭が大小様々な困難を抱えながら日々を生活しています。その困り感を言葉で発信できるかどうかやはりキーポイントだと思います。今回も母親より発信があったことで支援につなげることができました。支援は誰でも受けられる助け合い制度だと思います。しかし支援を受ける側は「申し訳ありません」「もっと努力すれば」「私の力不足なんです」と言われます。その垣根を少しでも低くし、支援によって精神面を安定・向上させ子育てや日常生活に二次障害が起きないように努めなければならないと思います。よって支援センターの役割は、思いを表出できる場として、同じ環境のメンバー同士が情報共有を行うの場として身近な存在にいるという意識をもたなければならないと思います。行政はハードルが高いと感じる方もいらっしゃるかもしれません。その中間役として繋ぎ役として今後も励もうと思います。

今年度も、活動や手作りキットなどたくさんの子育て世帯に利用していただきました。以前より参加数は少なくなりましたが、利用者がいるかぎり支援を続けていきたいと思っています。次年度も親子のふれあいを大切にしながら子育ての知識を共有し合いながら一緒に子育てを楽しめる空間を作りたいと思いますので、今後とも支援にご指導・ご協力いただければうれしいです。今年度も本当にありがとうございました。